

苺品質向上対策について

令和8年2月

「暖候期品質対策」について

(肥料施肥について)

1. 「カリ」肥料の施肥

目的は玉肥大・日持ち対策

「ふとる」5 kg又は「カリっと」1 kgを7日置きに灌水処理

又は「ウルル18号」の場合は5日置きに5 kgを灌水処理

徒長防止・玉肥大相乗効果には、「PKゴー」300 g 灌水処理

軟弱葉の場合は、「シリカ水」1000倍葉面散布

2. 「カルシウム」の施肥

目的は果実の硬果・日持ち対策

カル元気（カルシウム成分10%）を5～7日置きに3 kgを灌水処理

葉面散布の場合は、1,000倍で5日置き

◎果実の硬化対策には、赤く熟れてからの施肥でなく開花期から定期的に施肥をします。

3. 「発根・根の充実維持」の施肥

目的はリンサン・カルシウム・微量元素の吸収促進・根の活性対策

アミクエを7～10日置きに5～10 kgを灌注処理

(栽培管理について)

芯葉の徒長や薄葉は、同化作用の低下となり果実の肥大や品質に影響しますので午前中のやや低めの温度管理や高温多湿（多雨）時はハウスを開けての管理を行いましょう。

◎「高温期品質対策は、施肥と合わせて適正な温度管理や電照調整を行います」

アグリ技研（株）